

「子供の居場所づくりを中心とした子育て支援と団地再生事業」(二次募集)
公募結果について

新型コロナウイルス感染症及びウクライナ情勢に伴う原油価格・物価高騰の影響により、行政では対応困難な様々な社会的課題が生じています。また、少子化が急速に進行する中で、子育てに課題を抱える家庭へのきめ細やかな支援など、現行の行政施策では十分に対応できていない社会的課題への支援ニーズが高まっています。

資金分配団体として一般社団法人コミュニティネットワーク協会は、休眠預金を活用した民間公益活動の促進の一環として、「子供の居場所づくりを中心とした子育て支援と団地再生事業」に関する実行団体の公募に関する二次募集の実施結果と審査結果・採択した実行団体の事業概要等について、以下のとおり公表します。

1. 公募の実施結果

(1) 公募期間

2024年6月7日(金)～2024年6月21日(金)

(2) 応募総数

4件

(3) 外部審査員による審査会の実施

【開催日】

2024年6月28日(金)10時～13時

【審査方法】

第三者の専門家による審査委員会を設置し、審査委員により本事業の「実行団体公募要領に記載した選定基準」に基づいて書類選考を行いました。

2. 審査結果

審査委員会による審査の結果、**助成額の総額(二次募集分)「15,000,000円」**および、**二次：1団体が助成対象(実行団体)**として採択されました。各団体の事業名、助成金額、事業概要などは次頁のとおりです。なお、助成額は実行団体よりご提出いただいた事業計画書・資金計画書に基づき算定しています。

3. 採択した実行団体の事業概要等

実行団体 No.4

団体名	特定非営利活動法人わっばの会
所在地	愛知県名古屋市北区
申請事業名	大曾根住宅の中の総合交流拠点「ソーネおおぞね」を活用した子育て支援事業
助成金額 予定	15,000,000 円
事業の概要	<p>2018年に誕生したソーネおおぞねでは当初より地域の子供や高齢者を含んだ地域住民の総合交流拠点として事業展開をしてきている。子どもたちが店員としての生の労働体験を行なう。「キッズカフェ&ショップ」を開催してきた。地域の子どもや高齢者を対象とした「ソーネみんなでゴハン」という地域食堂の取り組み、地域の子供たちへの食糧支援、学習支援という取り組みも継続してきた。ソーネおおぞね内には駄菓子販売コーナーがあり、またダイニングカフェにおいてはキッズスペースが設けられ子供たちが来やすい環境になっている。加えて名古屋市青年会議所の協力を得て「みらいチケット」で、子どもたちに無料の食事提供も行ってきた。</p> <p>これらの様々な活動も「キッズカフェ&ショップ」の規模縮小「ソーネみんなでごはん」が弁当配りへと制限されたり、学習活動も終了したり更にみらいチケットも青年会議所の活動も3ヶ月で終了したりと様々な停滞・困難をきたしている。また「ソーネおおぞね」は多世代交流の場であるが、静かにしたい高齢者と騒ぎたい子どもたちといった共存困難な課題も抱えている。そこで一定の空間の仕切りが大切と考え、高齢者が静かにできる空間、子供たちが駄菓子コーナーを中心にいつでも自由に過ごせ、ボランティアとの交流できる子どもコーナーを新設するといった思い切った改造を行いたい。</p> <p>そして好評だったいつでも子供たちが好きな時に自由に食事を楽しめて無料の「未来チケット」の復活、「キッズカフェ&ショップ」の拡大充実「ソーネみんなでゴハン」のホールを活用した食事空間の再出発といった活動を再生・発展させていきたい。そして学習活動、相談活動もしっかりと機能させていきたい。この6年で築かれてきた大曾根住宅自治会や周辺学区自治会、地元小学校との関係を一層緊密化することで大曾根地域共生の街づくりの構想へと高めていきたい。</p>
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・わっばの会は、半世紀以上にわたり、街の中で障害のある人とない人が共に生きることを目指して、「共同生活体」「共働事業所」をはじめとする先駆的な活動に取り組んできた。 ・大曾根地域では、2012年に「わっば共生共働センター」を設けたほか、名古屋市から「仕事・暮らし自立サポートセンター大曾根」を受託し、生活困窮者の相談支援に活動領域を広げた。2018年には愛知県住宅供給公社大曾根住宅の空き店舗スペースに「ソーネおおぞね」を開設し、ユニバーサルな就労の場と地域の総合交流拠点を運営している。 ・本事業提案は、団地および周辺地域を対象として、子どもの居場所づくりを中心に、複合的な孤立や困難を抱えた、またはそのおそれのある世帯を支援するという今回の助成の趣旨に沿ったものである。他方で、既存の事業の微修正という性質が強く、新規性の点で疑問が残る。また、「みらいチケット」の業務委託費に多額の費用を計上している点も、次年度以降の事業の継続性を考えた場合に懸念がある。 ・孤立や困難は見えにくく、それらを適切に把握するためには、地域に根差した活動を続けて潜在的なニーズをとらえるノウハウを蓄積する必要がある。また、地域の関係者や、専門性が高い団体や機関との連携を築くことが求められる。わっばの会は、それらの条件を十分に備えている。「ソーネかわら版」などの発信力が高く、他の事業者への波及効果も望める。今後も、地域共生社会のモデルとなる活動に期待している。